

碓氷第三橋梁

群馬県安中市松井田町坂本

JR信越本線横川駅から国道18号旧道をたどり山奥へ。15分ほど走ると緑が繁茂する大自然のなかに突如として巨大な煉瓦造の構造物が現れる。かつて信越本線の横川～軽井沢間(通称碓氷線)をつないでいた碓氷第三橋梁、通称「めがね橋」である。高さ30m超。1893(明治26)年に200万個あまりの煉瓦を積み上げて建造されたインフラの存在感に圧倒される。

急勾配を昇降するために採用されたのはアプト式の線路だ。線路の真ん中にラックレールと呼ばれる歯形のレールを敷設し、機関車側の動輪(ピニオン)と噛み合わせて急峻な勾配を登る。大きな荷重を分散させるために、鉄桁ではなく煉瓦造のアーチ橋とした。

完成の翌年に発生した明治東京地震により橋台に亀裂が発生し、橋脚とともに補強工事が施された。橋脚が2倍ほどに太くなり、その結果径間も18.3mから16.5mに狭小化している。かつては現在よりもスレンダーなアーチ橋だったのだろう。120年という時間に磨き上げられ、峠に屹立する土木アート。その変遷に思いを馳せた。

1963(昭和38)年、電化された信越本線が敷設され、めがね橋は約70年の歴史に幕を下ろす。その新線も1997(平成9)年の長野新幹線開通を機に廃線となった。その上下線の2基とめがね橋が碓氷の山間に静かに佇んでいる。



長さ91m、高さ31m、4径間の国内最大級の煉瓦造アーチ橋。通称「めがね橋」。1893(明治26)年に完成。1963(昭和38)年、信越本線の電化に伴い廃線となるまで供用された。1993(平成5)年に碓氷鉄道施設として国の重要文化財に指定。横川駅からの線路跡は「アプトの道」として整備されている。

